

三郷市景観計画及び 三郷市景観条例

【概要版】

(案)

平成 22 年 6 月

三 郷 市

目 次

1	景観計画及び景観条例について・・・・・・・・・・	1
2	三郷市景観計画の概要・・・・・・・・・・	3
3	三郷市景観条例の概要・・・・・・・・・・	1 2

1. 景観計画及び景観条例について

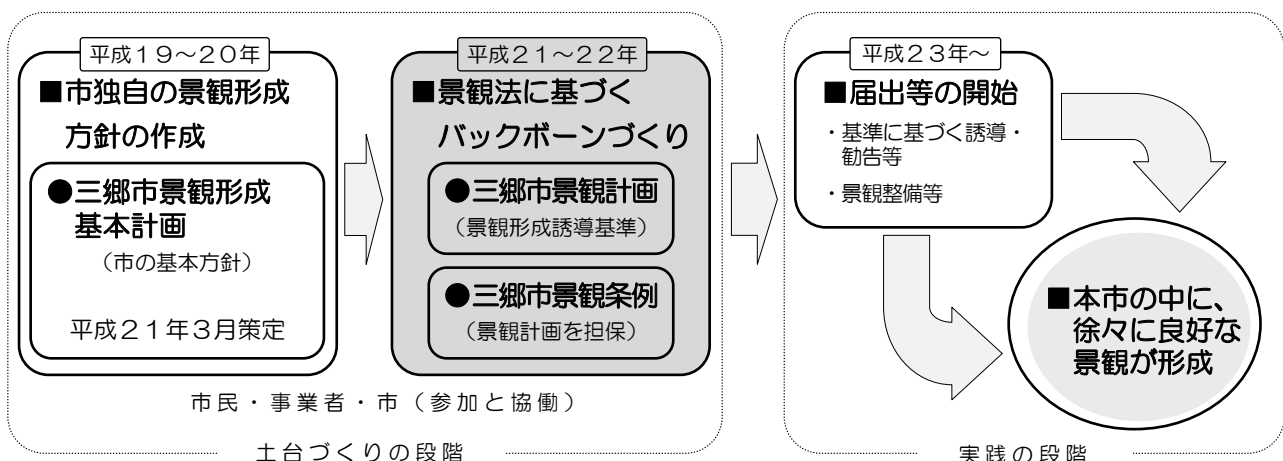
(1) 景観計画策定及び景観条例制定の背景

良好な景観形成は、自らの住居空間や商業・業務空間などの生活環境を向上させるとともに、都市の魅力を創出させ来訪者の増加を促し、地域の振興及び活性化に寄与することとなります。

本市は、平成19年6月1日より景観行政団体となり、良好な景観形成の実践に向けた「土台づくりの段階」に入っております。その土台づくりとして、まず景観形成基本計画を策定し、次にそれに基づいて景観計画の策定と景観条例の制定を行います。そして「実践の段階」として、建築物等の届出等や良好な景観整備等をスタートさせ、その結果として、徐々に良好な景観が形成され、市民のなかに市への誇りと愛着が育まれるような取り組みを推進します。

次の図1に、その二つの段階の取り組みの流れを示します。

図1. 景観形成に関する取り組みの流れ



(2) 三郷市景観形成基本計画とは

景観形成基本計画は、本市の景観形成の将来像を示す「市の景観まちづくりの方針」です。そのため本計画は、本市の景観特性を活かすとともに、景観形成における課題への対応策など、良好な景観形成を推進するための基本的な考え方や方向づけを定めます。また、本計画は、景観計画の策定や景観条例の制定のための基礎となるものです。

（３）三郷市景観計画とは

景観計画は、景観法に基づき景観行政団体が法の手続きに従って定める「良好な景観の形成に関する計画」のことで、景観形成の方針や行為の制限に関する事項を定めることができます。

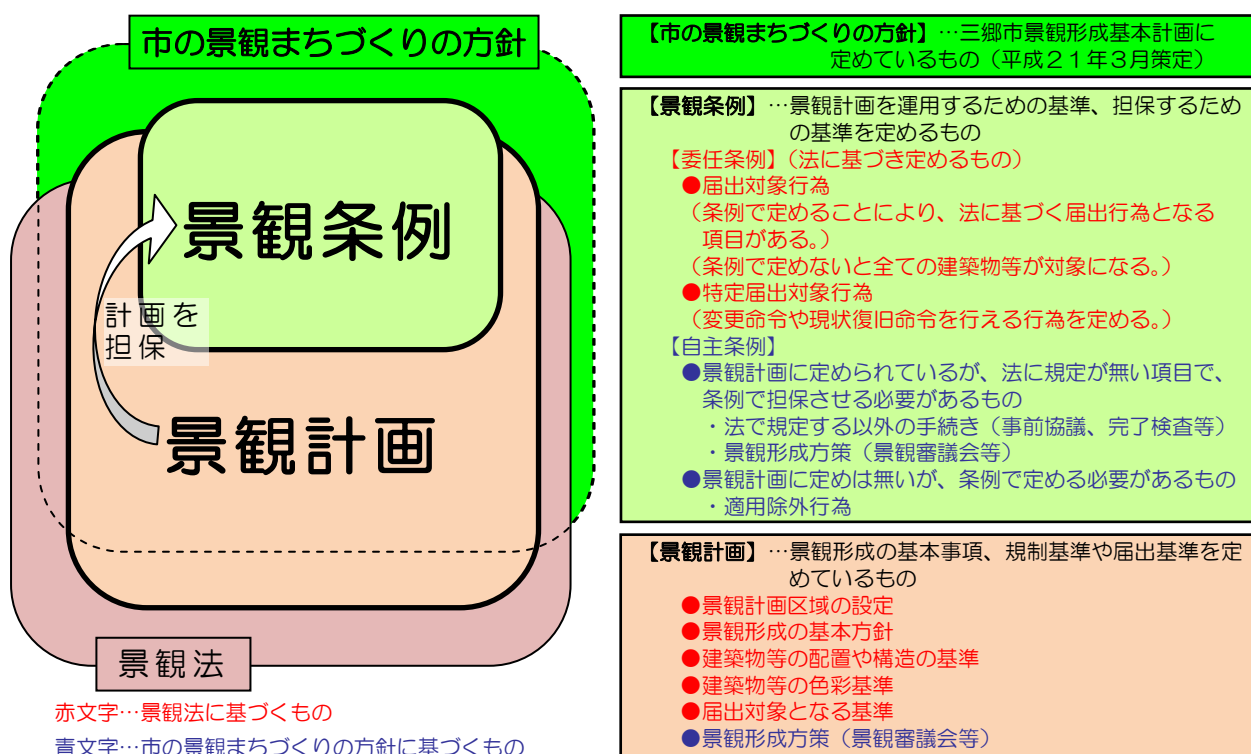
三郷市景観計画は、三郷市景観形成基本計画の方針に基づき、本市の景観特性を活かしたものになっています。

（４）三郷市景観条例とは

景観条例は、景観法に基づく景観計画の内容を担保させるために景観行政団体が定める委任条例です。

三郷市景観条例は、委任条例として景観計画の内容を担保させるとともに、自主条例として景観形成の推進方策等の履行担保や景観審議会の設置等を定めます。

図２．景観計画と景観条例の関係図



2. 三郷市景観計画（案）の概要

■ 景観計画の構成

本景観計画は、次の四つの事項について定めます。

■ 目的の 設定

第1章 景観計画の目的と位置づけ

- 景観法に基づいて景観形成基本計画を具体化するもので、景観形成の誘導等を行うために策定します。また、総合計画や関連計画、県及び国の位置づけを示します。

■ 景観法のもとで 定めるべき事項

第2章 景観計画の区域（法※第8条第2項第1号（※「法」は「景観法」を示す、以下同じ））

- 市全体を景観計画区域と定めます。

第3章 景観計画区域における良好な景観の形成に関する方針（法第8条第2項第2号）

- 将来の景観像として基本目標を定めます。
- 基本目標に基づいて、良好な景観の形成に関する方針として、自然・田園とまちとの係わりや、市街地全般、市民と事業者と市の協働及び推進方策による景観づくりを定めます。
- 市全体をゾーン等に区分して、それぞれの特性を踏まえた景観形成方針を定めます。

第4章 良好な景観の形成のための行為の制限に関する事項（法第8条第2項第3号）

- 届出の「対象地区」として景観計画区域と同区域内の重点地区を定めます。
- 景観計画区域と重点地区における「届出対象行為」を定めます。
- 行為の制限に関する事項として、景観計画区域と重点地区の「景観形成基準（色彩を含む）」を定めます。

第5章 景観形成の推進体制と届出等の手続きに関する事項

- 市の推進体制と国・県や景観審議会、景観アドバイザーの関係を定めます。
- 重点地区は、予め協議を行う場として重点地区景観協議会の設置を定めます。
- 事業者が行う「手続きに関する事項」を定めます。

第6章 景観重要建造物及び景観重要樹木の指定の方針（法第8条第2項第4号）

- 景観重要建造物の指定の方針を定めます。
- 景観重要樹木の指定の方針を定めます。

■ 景観法のもとで 必要に応じて定 める事項

第7章 屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為の制限に関する事項（法第8条第2項第5号）

- 屋外広告物の誘導等を景観形成基準と県条例において行うための方針と、必要に応じて検討を行う市独自の屋外広告物条例制定に関する方針を定めます。

第8章 景観重要公共施設の整備に関する事項及び占用許可等の基準（法第8条第2項第5号）

- 河川、公園、道路、公共建築物等について、景観重要公共施設の位置づけと整備及び占用許可等の考え方を定めます。

■ 市が 定める 事項

第9章 景観形成の推進方策

- 公共事業景観ガイドラインの作成について、方針を定めます。
- 市民等による景観まちづくり活動について、支援策の検討方針を定めます。
- 市民等に対する景観まちづくりへの関心・意識高揚について、支援策の検討方針を定めます。
- 市の景観形成推進体制について、設置方針を定めます。

①景観計画の目的（景観計画第1章）

（1）目的

本市は、地域で育まれ、まちづくりで形成された良好な景観とともに、課題となる景観も有しております。また、近年、駅及び三郷インター周辺において新たな街の表情が創出されつつあります。三郷市景観計画は、三郷市景観形成基本計画を景観法に基づいて具体化するもので、三郷市景観条例の制定とともに良好な景観形成に向けた誘導等を行うために策定します。

（2）位置づけ

景観計画は、景観法及び景観条例に基づいた景観形成の指針として景観の誘導等を行うためのものです。本市の三郷市総合計画を踏まえ、主な関連計画及び埼玉県の景観アクションプランとの整合を図り策定します。

②景観計画の区域（景観計画第2章）

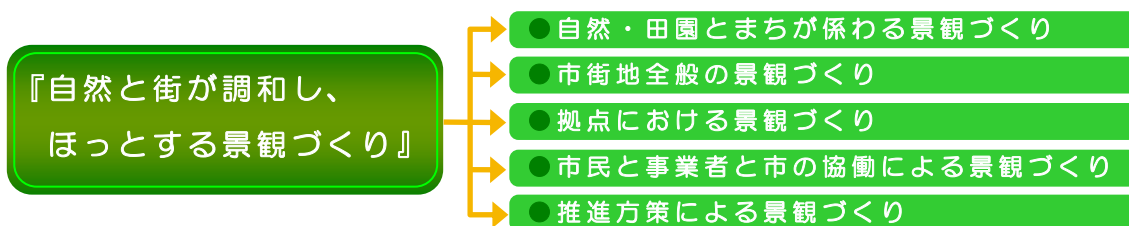
本市は、良好な景観形成を推進するため、市全域を景観計画区域とします。

③景観計画区域における良好な景観の形成に関する方針

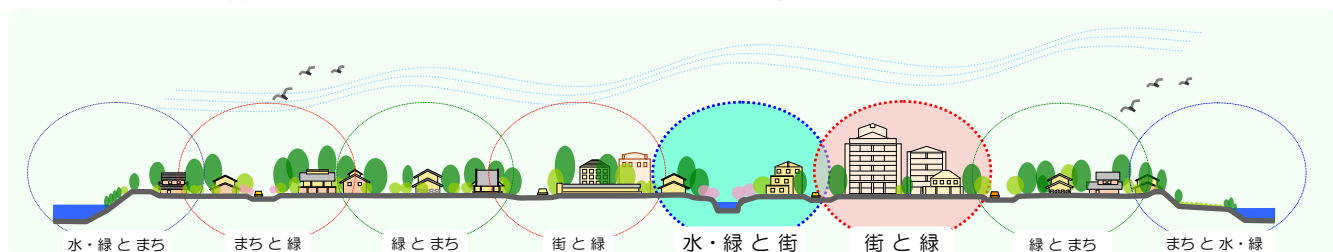
（景観計画第3章）

（1）基本目標

図3. 基本目標及び5つの基本方針



本市がめざす景観形成の目標像は、水・緑を地域景観の礎とした「水・緑と街（まち）が調和する景観連鎖」です。この景観連鎖は、良好な景観が形成された一定の地域が、それぞれに係わりをもちながら市全体に連なり広がるさまを表し三郷市景観の特色となるものです。



(2) 市全体の景観形成方針

三郷市を景観の観点から次に示す三つの種別に区分して市全体の景観形成方針を定めます。一つ目は、今後の開発動向や土地利用から面的に区分した『景観ゾーン』です。二つ目は、河川・用水路と道路・鉄道の線的骨格を示す『景観軸』です。そして三つ目は、新たな街の顔づくりやレクリエーション景観の形成など、景観上重要となる点的な『景観拠点』です。それぞれについて、その特性を踏まえて景観形成方針を次のとおり設定します。

図4. 景観ゾーン等の方針及び対象地区図

(1) 景観ゾーンの方針（面）

■ときめき
景観ゾーン

- 今後、商業施設や住居施設等により新たな市街地景観が創出される一定の区域を「ときめき景観ゾーン」とします。
- 三郷市の新しい街の表情を創出するとともに、ゆとりと賑わいのある景観形成を図ります。住まい空間においては、落ち着きと潤いのある景観形成を図ります。



■まちなみ
景観ゾーン

- すでに、住居施設や商業施設、工業施設等により市街地として景観が形成されている一定の区域を「まちなみ景観ゾーン」とします。
- 住居施設は、落ち着きと潤いのある景観形成を図ります。また、地域らしさを残すまち並みの育成を図ります。
- 商業施設は、ゆとりと賑わいのある景観形成を図ります。
- 工業施設は、親しみと潤いのある景観形成を図ります。



■ゆとり
景観ゾーン

- 農地、または農地の一部に住居施設や工業施設等が点在している一定の区域を「ゆとり景観ゾーン」とします。
- 都市のゆとりや潤い空間として、農地景観の維持と一部土地利用されている住居施設等との調和に配慮した景観形成を図ります。
- 都市計画マスタープランに位置づけられる将来都市構造の産業立地ゾーンにおいては、その土地利用がされる周囲を緑化するなど、周辺環境の調和に配慮した景観形成を図ります。

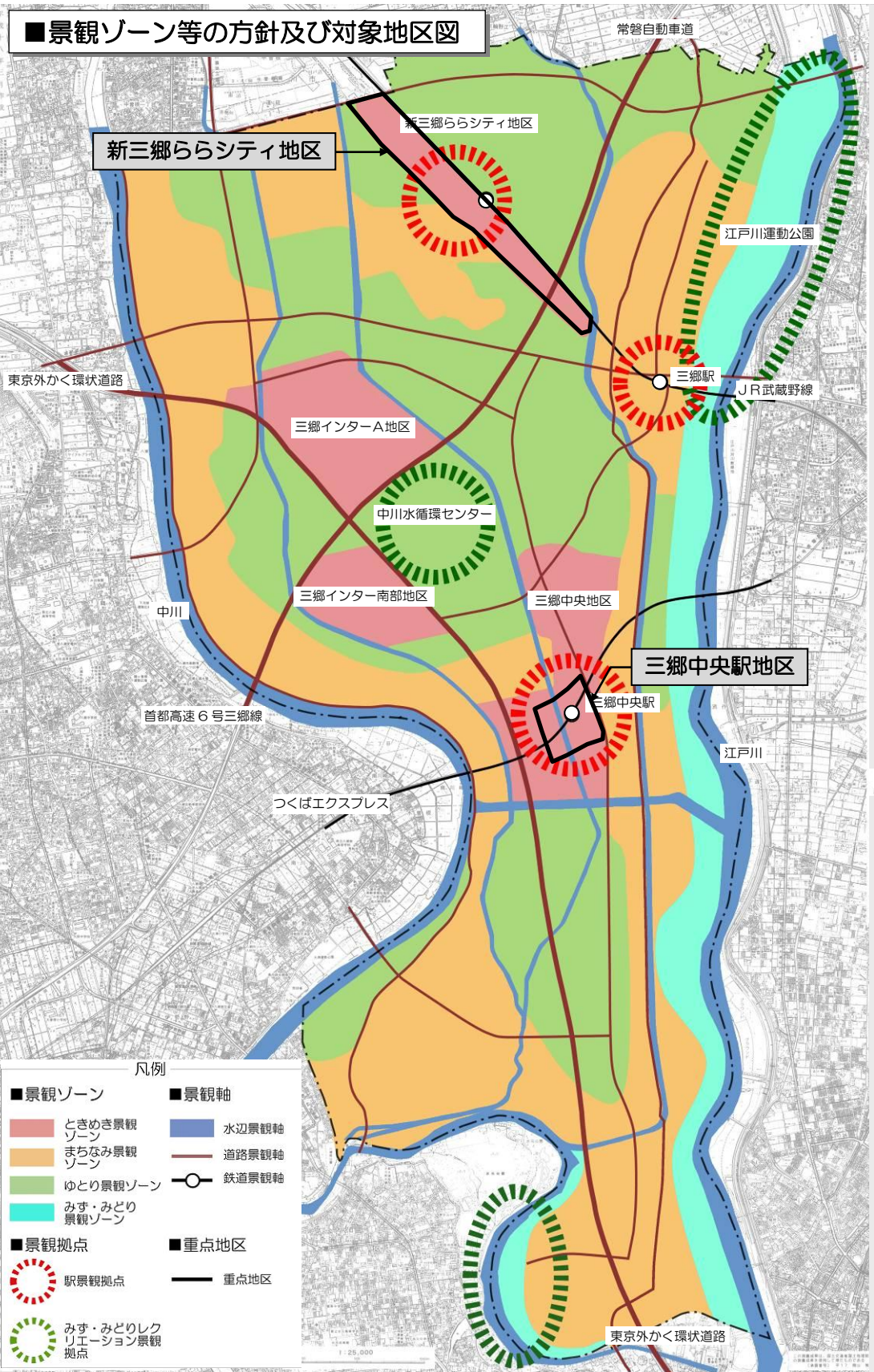


■みず・みどり
景観ゾーン

- 水辺や緑のオープンスペースを有し、市民のスポーツや憩い等のレクリエーション景観の区域を「みず・みどり景観ゾーン」とします。
- 水辺に親しみ、スポーツ、憩いの場として、水辺景観の維持と潤いのある景観形成に努めます。



■景観ゾーン等の方針及び対象地区図



(2) 景観軸の方針（線）

■水辺
景観軸

- 市域の東西に位置する江戸川・中川と市内を縦横断する河川や用水路は、三郷市景観の線的骨格を示すもので「水辺景観軸」とします。
- 身近な水辺として親しまれるとともに、水辺景観を保全し、育成し、良好な水辺の景観形成を図ります。



■道路・鉄道
景観軸

- 市内の遠景として印象強い常磐自動車道や東京外かく環状道路等の高規格道路と、車や人の動線として市内をネットワークする主要道路、またJR武蔵野線とつくばエクスプレスを「道路・鉄道景観軸」とします。
- まちなみ景観ゾーン及びゆとり景観ゾーンとの調和に配慮した大規模構造物の景観形成を図り、人にやさしい、緑を考慮した景観形成に努めます。
- また、道路軸においてはパブリックデザイン（ストリートファニチャー等のデザイン）に配慮した景観形成を図ります。



(3) 景観拠点の方針（点）

■駅
景観拠点

- 都市の玄関口として、新たな街の顔づくりを行うべき点的区域を「駅景観拠点」とします。
- 駅を中心に、賑わいや憩いづくりに配慮した景観形成を図ります。



■みず・みどり
景観拠点

- 水辺や緑のオープンスペースを有し、市民のスポーツや憩い等のレクリエーション景観として重点を置く区域を「みず・みどりレクリエーション景観拠点」とします。
- 水と緑の景観を保全し、ゆとりと潤いのある景観形成に努めます。



④良好な景観の形成のための行為の制限に関する事項

(景観計画第4章)

(1) 対象地区 (図4 参照)

①景観計画区域

行為の制限に関する事項は、市全体の景観形成方針に示す「景観ゾーン」、「景観軸」、「景観拠点」の8地区に区分して定めます。

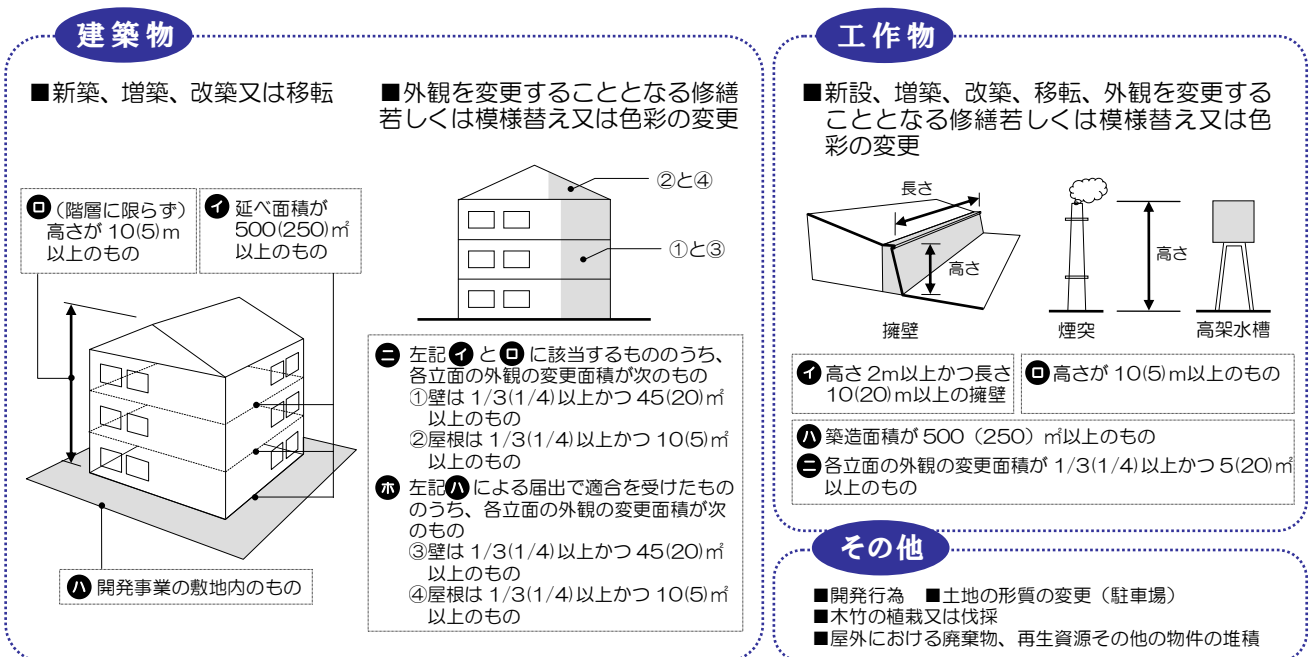
②重点地区

重点地区は、景観計画区域のなかでも、特に良好な景観の形成を図る必要がある地区になります。景観形成基本計画で選定されている重点地区候補の中で、景観形成に係わる独自の計画等が策定されている、「新三郷ららシティ地区」、「三郷中央駅地区」を重点地区として定めます。

(2) 届出対象行為

良好な景観形成に大きく影響を及ぼす中規模以上の建築物等について、届出行為が必要になります。また、重点地区では、より重点的に景観形成を推進する観点から、届出対象規模が拡大されます。

図5. 主な届出対象行為



※上記に示すカッコ内の数値は、重点地区における届出基準です。

(3) 行為の制限に関する事項 (景観形成基準)

景観形成基準は、すべての「建築物」、「工作物」、「開発行為」、「土地の形質の変更」、「木竹の植栽又は伐採」及び「屋外における土石、廃棄物、再生資源その他の物件の堆積」の行為を対象とし、良好な景観形成の推進を目的として定めるものです。ただし、届出は一定規模のものを対象として行います。

図6. 景観形成基準（モデル基準図）

▼住居系景観形成のモデル基準図（例示：まちなみ景観ゾーン）

【屋根】
●屋根は、勾配屋根を主体とし、周辺と高さを揃える事で、周囲との整合を図るよう配慮します。

【色彩】
●色彩は落ち着いた色を基調とし、壁面は暖色系、屋根面はグレー系の色とします。

【外壁】
●圧迫感や単調な壁面を避けるために、1階壁面の後退や、1、2階壁面の色彩に変化を与え、周辺との景観の調和に配慮します。

【付帯設備類】
●設備機器は、生垣の内側に配置し外部から見えにくいように配慮します。

【外構と緑化】
●敷地内周辺やまち並みに配慮して生垣を設けます。
●低中木及び花・紅葉等の彩りに配慮します。
●駐車場の舗装面は緑化に配慮します。



【夜間照明】
●夜間照明は、必要最小限の数量・光量・光源・高さに配慮します。

【高さ・規模】
●屋根や軒、階、最上部の高さは周辺との連続性に配慮します。
●規模が過度に大きく感じないように、立面形態や、敷地外周部のゆとりスペースの確保に配慮します。

【バルコニー】
●物干しは外部から見えにくい位置に配慮します。
●手摺部は本体と形態意匠を合わせます。

【付帯施設】
●ごみ置き場は、生垣等で周囲を囲み、露出が過度にならないように配慮します。

【配置】
●背後（周辺）のシンボル樹の見通しを確保するため建築物の配置に配慮します。
●建築物は道路とのゆとりスペース（壁面後退）の確保に配慮します。

▼商業系景観形成のモデル基準図（例示：駅景観拠点等）

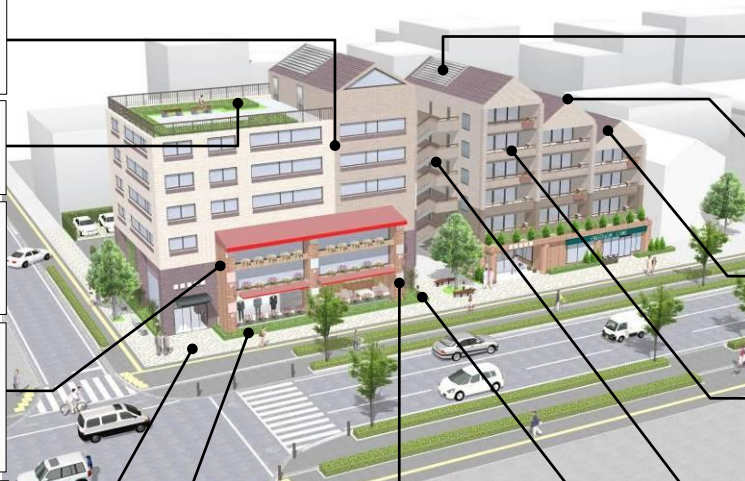
【外壁】
●外壁は単調な壁面を避け、前後の壁面分節や色彩の変化に配慮します。

【建築等緑化】
●屋外の休憩スペース周りや、一部低層部の壁面緑化に配慮します。

【外構の緑化】【付帯施設】
●駐車場は、露出が過度にならないよう、周辺に生垣を設けると共に舗装面は緑化に配慮します。

【色彩】
●色彩は、前部建築物は賑わいのある色とし、後部は落ち着いた色を基調とします。また、外壁及び屋根とも暖色系とします。

【配置】
●建築物は、道路とのゆとりスペース（壁面後退）を確保し、前部と後部建築物の壁面位置はまち並みの連続性に配慮します。



【外構と緑化】
●道路沿いの高木や建築物の足元に、低木を植栽し、まち並みに連続した緑化に配慮します。

【付帯広告物】
●付帯する広告物は位置や大きさを揃え、魅力ある色彩に配慮します。

【夜間照明】
●外部へは、必要以上の照明を避け、過度の光量、光源とならないように配慮します。

【付帯設備類】
●設備機器はルーバー等で遮蔽し、外部から見えにくいよう配慮します。

【高さ・規模】
●階高を揃え、屋根部のスカイラインをなだらかな曲線とし、周辺との連続性に配慮します。

【屋根・屋上】
●屋根は、勾配屋根と陸屋根とし、周辺との調和に配慮します。

【バルコニー等】
●手摺部は、建築物等と形態意匠を合わせるように配慮します。
●物干し、室外機は外部から見えにくい位置に配慮します。

【屋外階段】
●屋外階段は、建築物本体と調和した形態・意匠に配慮します。

▼屋外における物件の堆積等景観形成のモデル基準図

■土地の形質の変更
●切土、盛土の高さや法面・擁壁勾配は周辺の景観との調和、緑化に配慮します。

●土地周囲に設置するフェンスやブロック等は、周辺の景観との調和に配慮します。



■木竹の植栽又は伐採

●樹木の伐採は、必要最小限に抑え、道路沿いの樹木を残すよう配慮します。

●シンボルの樹木を残すように配慮します

●敷地外周部の緑化に配慮します。

■開発行為

●盛土の高さを抑え、法面勾配を緩やかとし、擁壁部は草花の植栽に配慮します。

■屋外における土石、廃棄物、再生資源その他の物件の堆積

●集積や貯蔵は、周辺から目立たないようにし、土石や廃棄物等の積み上げ高さが、障壁の高さ以下になるよう配慮します。

●出入口の幅は、車両がすれ違い可能な幅に抑えます。

●土砂や廃棄物が直接露出しないように、高さ基準に適合した障壁の設置に配慮します。

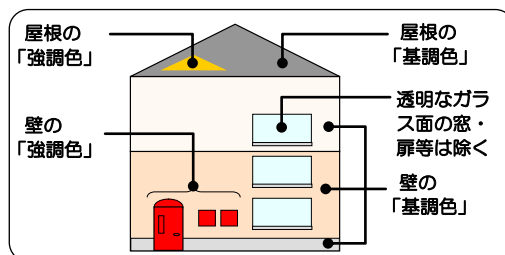
※市内における土砂の堆積の高さに関しては、「三郷市条例土砂の堆積の規制に関する条例」の第8条で「土砂高さを2m以内」と規定しています。

図7. 景観形成基準（色彩基準）

（例示）住居・自然系等が主となる地区の色彩基準の設定

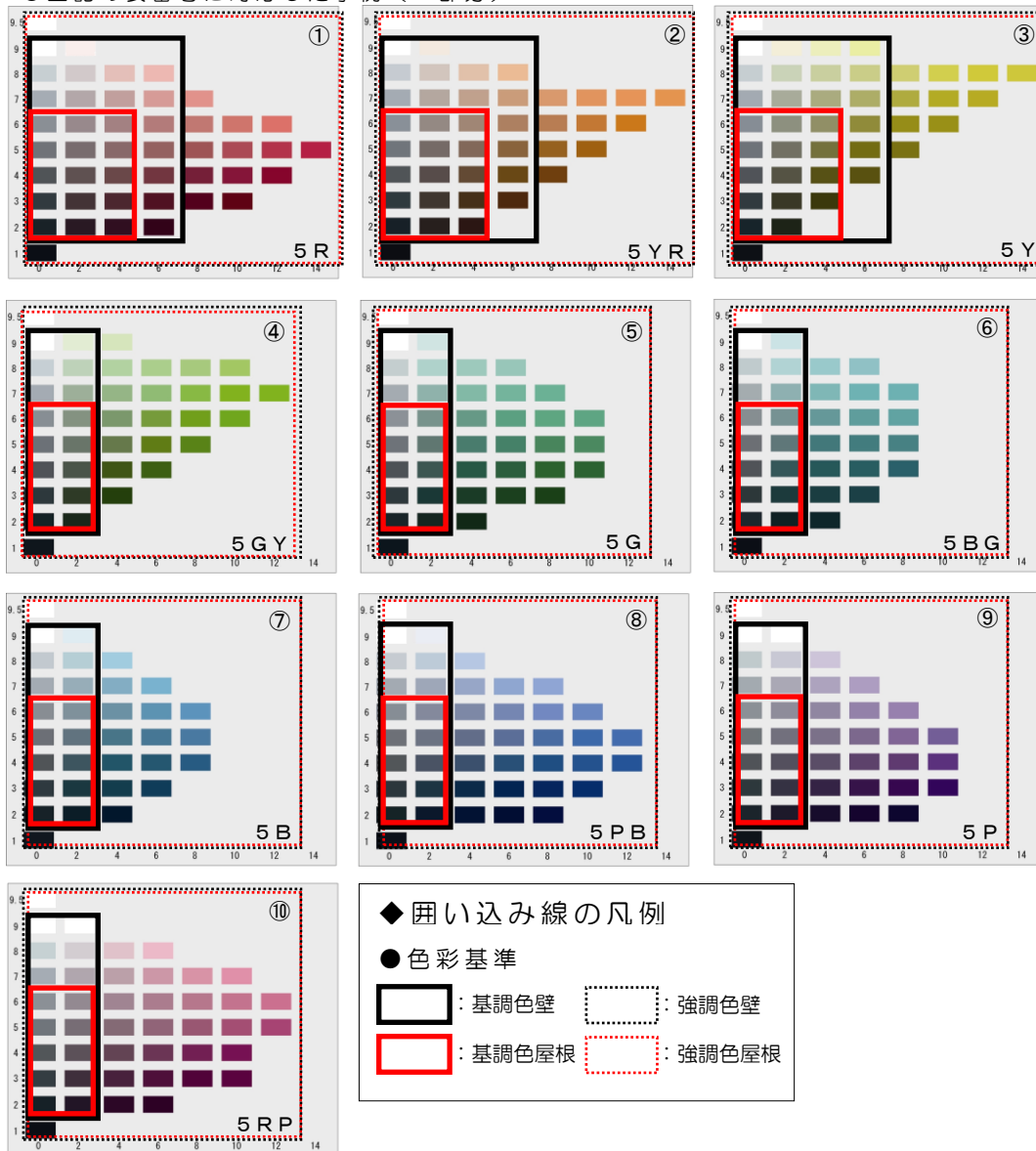
■ 外壁及び屋根の基調色と強調色（使用可能な範囲）

色 相	部 位	基 調 色		強 調 色	
		明 度	彩 度	明 度	彩 度
① R （赤）	外壁	2～9	6 以下	1～9.5	14 以下
② Y R （橙）	屋根	2～6	4 以下		
③ Y （黄）					
④ G Y （黄緑）	外壁	2～9	2 以下		12 以下
⑤ G （緑）					
⑥ B G （青緑）					
⑦ B （青）					
⑧ P B （青紫）	屋根	2～6	2 以下		
⑨ P （紫）					
⑩ R P （赤紫）					
N （無彩色）	外壁	2～9	—		
	屋根	2～6			



	住居・自然系
基調色	8.5 / 10 以上
強調色	1.5 / 10 未満

● 上記の表番号に対応した事例（一部分）



※色を定量的に表す基準としてマンセル表色系を使用する。色彩を色の三属性（色相、明度、彩度）によって表現する。

例：5 Y 7 / 4（色相：5 Y 黄色、明度：7、彩度：4）

⑤景観形成の推進体制と届出等の手続きに関する事項

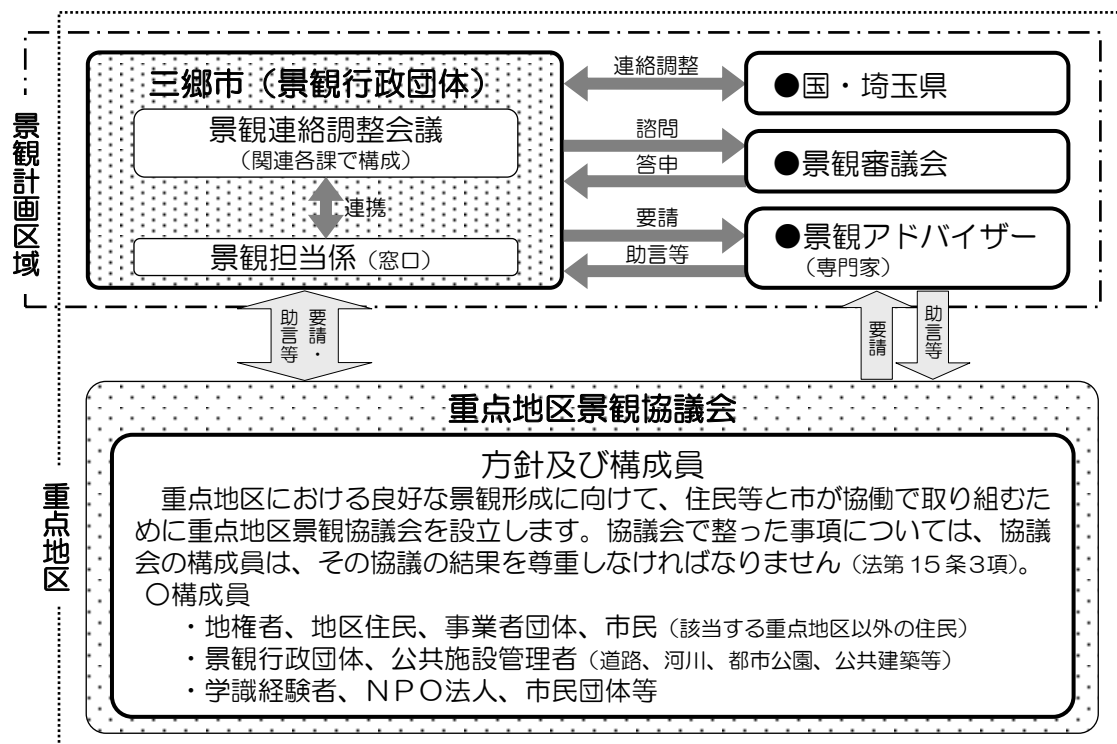
(景観計画第5章)

(1) 景観形成の推進体制

景観計画区域については、三郷市「景観担当係」を窓口とし、庁内の関連各課で構成した「景観連絡調整会議」と連携して取り組みます。また、国・埼玉県とは連絡調整、景観審議会とは諮問・答申、そして景観アドバイザーとは要請・助言等が行える体制を整えます。

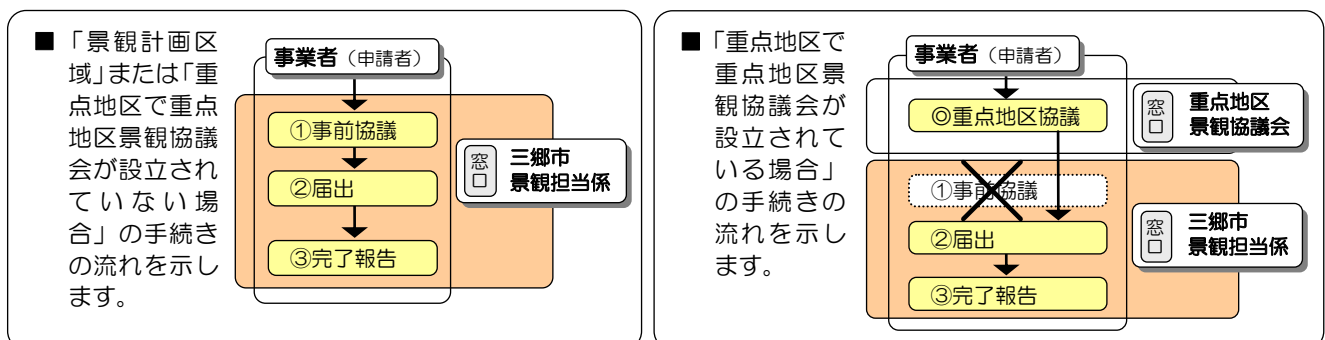
重点地区については、同地区の景観形成を同地区自ら推進していくため、下記に示す構成員による「重点地区景観協議会」を設立し、三郷市と連携して取り組みます。また、同協議会は三郷市及び景観アドバイザーより助言等を受けられるような体制を整えます。

図8. 推進体制



(2) 届出等の手続き

図9. 届出等の手続き概要



⑥景観重要建造物及び景観重要樹木の指定の方針

(景観計画第6章)

(1) 景観重要建造物の指定の方針

道路、水辺やその他の公共の場所から容易にながめることができ、要件を有する建造物は、当該建造物の所有者より指定の同意を得て景観重要建造物に指定できるものとします。

(2) 景観重要樹木の指定の方針

道路、水辺やその他の公共の場所から容易にながめることができ、要件を有する樹木は、当該樹木の所有者より指定の同意を得て景観重要樹木に指定できるものとします。

⑦屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為の制限に関する事項 (景観計画第7章)

屋外広告物については、すでに埼玉県屋外広告物条例に基づき誘導等を行っています。建築物等に付帯する広告物は、建築物等と一体的に誘導することが望ましいと考えます。

そのため次のような考えに基づいて、屋外広告物の表示や掲出物件の設置に関する行為の制限を定めるものとします。

- 建築物等に付帯する広告物は、景観計画の「建築物等の景観形成基準」に基づき、その他の広告物は、「埼玉県屋外広告物条例」を適切に運用することとします。
- また、本市の景観特性に基づく屋外広告物の誘導等を行うため、必要に応じて「三郷市独自の屋外広告物条例」制定の検討を行うものとします。

⑧景観重要公共施設の整備に関する事項及び占用許可等の基準 (景観計画第8章)

(1) 景観重要公共施設の位置づけ

要件を有する公共施設は、景観重要公共施設に位置づけることができるものとします。

(2) 景観重要公共施設の整備及び占用許可等に関する考え方

景観重要公共施設は、景観指針に基づいて景観形成の整備及び占用許可等を行うこととし、その指針の詳細は公共施設景観ガイドラインで定めるものとします。

⑨景観形成の推進方策（景観計画第9章）

景観形成を推進するためには、行為の制限のほか、行政自らが推進すべきことや市民等の参加・協力を得るための方策が必要です。そのため長期的な視点に立って、次のような推進方策を行っていくものとします。

- 公共事業は、景観形成において先導的な役割を果たすことが重要です。公共事業の良好な景観整備を促進するためには誘導基準が有効となります。そのため、公共事業景観ガイドラインの作成を行います。
- 市民等が行う景観まちづくり活動について、支援策の検討を行います。
- 市民等に対する景観まちづくりへの関心・意識高揚について、支援策の検討を行います。
- 景観形成推進体制として、市の景観担当係や連絡調整会議、第三者機関として、審議会や景観アドバイザーの設置を行います。

3. 三郷市景観条例（案）の概要

■ 景観計画の構成

本景観条例は、前文、第1章から第5章及び附則で構成されます。

前文

第1章 総則（第1条～第6条）

第2章 景観計画の手続等（第7条～第21条）

第3章 景観形成の推進方策（第22条～第25条）

第4章 景観審議会（第26条、第27条）

第5章 雑則（第28条）

附則

① 第1章 総則（第1条～第6条）

第1章は、自主条例で構成され、条例制定の目的、基本理念、市民等の役割、用語の定義について定めます。

景観法には、これらについて定められておりますが、地域特性に応じた市独自の景観形成を推進するため、本条例で市独自の考え方を定めることにしています。

② 第2章 景観計画の手続等（第7条～第21条）

第2章は、委任条例と、景観計画の内容を担保するための自主条例で構成され、三郷市景観計画と本条例との係わり、三郷市景観計画に基づく手続きを担保する内容について定めます。

委任条例は、第10条から第13条の届出対象行為に関すること、自主条例は、それ以外となります。

本条例で定める内容のうち、主なものを以下に示します。

（1）勧告又は命令に従わない行為に関する公表の実施

勧告又は命令を受けた者が、正当な理由がなく従わないときは、氏名、内容、場所等を公表することを定めています。第13条に規定する特定届出対象行為以外の行為は、命令を行えず勧告しかできません。よって、それらの行為にある程度の強制力を持たせるため、公表することにします。

（2）建築確認申請の制限

届出対象の案件は、三郷市景観計画に適合することが明確になった後でなければ、建築確認申請を行えません。

③ 第3章 景観形成の推進方策（第22条～第25条）

第3章は、自主条例で構成され、三郷市景観計画第9章「景観形成の推進方策」を担保する内容について定めます。

④ 第4章 景観審議会（第26条～第27条）

第4章は、自主条例で構成され、三郷市景観計画第9章「景観形成の推進方策」に定める「景観審議会」について定めます。

景観審議会は、良好な景観の形成に関する重要な事項について審議する、第3者機関となります。

審議を行う主な内容は、景観計画の変更、勧告や命令を行う行為の審議などになります。

三郷市景観条例（案）条文一覧表

目次	条	項目	内容	委任条例		自主条例		条例により関連することになる法令等
				条例により景観計画の内容を担保するもの	条例により景観計画以外の内容を担保するもの	条例により景観計画の内容を担保するもの	条例により景観計画以外の内容を担保するもの	
前 文				×	×	×	×	×
第1章 総則	第 1条	目的	条例の内容の制定方針について	×	×	×	×	×
	第 2条	基本理念	市民、事業者及び市が良好な景観形成を推進するための基本的な考え方について	×	×	×	×	×
	第 3条	市民の役割	良好な景観形成を推進するために、市民の役割について	×	×	×	×	×
	第 4条	事業者の役割	良好な景観形成を推進するために、事業者の役割について	×	×	×	×	×
	第 5条	市の役割	良好な景観形成を推進するために、市の役割について	×	×	×	×	×
	第 6条	定義	本条例で使用する用語の意義について	×	×	×	×	×
第2章 景観計画の手続等	第 7条	景観計画	三郷市景観計画の位置づけを明らかにするとともに、三郷市景観計画の変更を行うときの三郷市景観審議会の役割について	×	×	○	○	○ (法12)
	第 8条	重点地区	重点地区の意義等について	×	×	○	×	×
	第 9条	重点地区景観協議会	重点地区景観協議会の意義等について	×	×	○	○	○ (法11, 15)
	第10条	届出対象行為	法第16条第1項第4号の行為について	○	×	×	×	×
	第11条	届出を要しない行為	法第16条第1項又は第2項の届出が必要な行為について	○	×	×	×	×
	第12条	行為の届出に添付する図書	法第16条第1項又は第2項の届出が必要な行為で必要とされる図書について	×	○	×	×	×
	第13条	特定届出対象行為	法第17条第1項及び第5項に規定する命令行為を行うことのできる届出行為について	×	○	×	×	×
	第14条	事前協議	法定届出を行う前に事前協議を行うことについて	×	×	○	×	×
	第15条	届出の特例	事前協議で適合する旨を回答した行為について、行為着手制限の日数を短縮することについて	×	×	×	○	○ (法18)
	第16条	指導又は助言	事前協議又は法廷届出の内容が三郷市景観計画に適合しているかの判断、そして、それに適合しないと認めるときに、行為を行った者に対し指導又は助言を行うことについて	×	×	○	×	×
	第17条	重点地区景観協議会が組織された重点地区の事前協議	重点地区景観協議会が組織された重点地区では、三郷市景観計画の定めにより、事前協議の提出先が重点地区景観協議会の協議会会長となることについて	×	×	○	×	×
	第18条	勧告及び命令	法に規定する勧告又は命令に当該者が従わないときは公表すること、勧告又は命令若しくは公表を行うときは三郷市景観審議会の意見を聴くことについて	×	×	×	○	×
	第19条	勧告及び命令の適用除外	埼玉県景観条例（旧条例）の適合を受けた建築物等は、外観を変更することとなる色彩の変更で正当な理由によるものに限り、前条の規定を適用しないことについて	×	×	×	○	○ (県旧景観条例10)
	第20条	適合確認書等の交付等	事前協議又は法定協議における適合書の交付、建築基準法第6条第1項又は第6条の2第1項の建築の申請の制限について	×	×	○	○	○ (建基法6)
	第21条	完了検査等	完了検査の実施について	×	×	○	○	×
第3章 景観形成の推進方策	第22条	公共事業景観ガイドライン	良好な景観形成の先導的な規範を示す、公共事業景観ガイドラインを策定することについて	×	×	○	○	×
	第23条	景観まちづくり活動	市民及び事業者が、一定の地区における良好な景観形成を推進するための活動を自主的に行うことを目的として組織を、団体として認定することについて	×	×	○	○	×
	第24条	表彰	良好な景観形成に寄与している物、良好な景観形成に関する活動又は貢献をしている者を表彰することについて	×	×	○	○	×
	第25条	景観アドバイザー	専門的知識を有する者として、景観アドバイザーを指定することについて	×	×	○	○	×
第4章 景観審議会	第26条	景観審議会	良好な景観の形成に関する重要事項について審議する第三者機関として、三郷市景観審議会を設置することについて	×	×	○	○	×
	第27条	景観審議会の審議事項等	三郷市景観審議会で審議する事項等について	×	×	○	○	○ (法19ほか)
第5章 雑則	第28条	委任	本条例の施行について必要な事項は、規則で定めることについて	×	×	×	×	×
附 則	1	施行期日	本条例の施行日が平成23年4月1日であることについて	×	×	×	×	×